



# 耐震改修工事 事例集

—— 耐震改修で安心な住まい ——



 富山県

記載されている工事費は、物価上昇を考慮して、令和6年度時点のものを1.1倍したものです。

(令和8年6月)

## ● はじめに

住宅・建築物の構造は、建築基準法でその基準が定められていますが、過去の地震において倒壊した住宅・建築物の多くは、耐震基準が強化された昭和56年以前に建築されたものであったことが判明しています。

それらの住宅に対しては、地震に対する安全性を評価する耐震診断を行うことが必要です。また、その耐震診断の結果、「倒壊する可能性が高い」又は、「倒壊する可能性がある」とされた住宅は、耐震化を図る必要があります。

地震はいつどこで起きてもおかしくありません。家族の生命や財産を守るため、大地震に備えましょう。

この事例集は、住宅の所有者の皆さんが耐震補強工事を行う際に参考にしていただけるよう、具体的な耐震補強工事の事例や耐震補強のポイントなどを紹介しています。

ぜひご自宅の耐震補強の参考にしていただければ幸いです。

## ● 耐震改修とは

耐震改修は、既存住宅の壁や基礎等を必要に応じて補強し、耐震性能を向上させる手法で、建替えに比べて少ない費用で短期間に行うことができます。

この事例集に掲載されている事例は、実際に行われた耐震改修工事の事例です。金額は標準的な工法で補強をした場合の目安であり、住宅の状態などにより異なりますので、耐震化の検討の際は専門家に相談してください。

## ● 補助制度や減税制度について

補助制度については、富山県のホームページ「木造住宅の耐震診断・耐震改修の支援制度」で詳しくお知らせしています。

減税制度については、国土交通省のホームページ「住宅をリフォームした場合に使える減税制度について」が参考になります。

## ● 目次

・耐震診断から耐震改修までの流れ	1
・耐震診断結果報告書の見方	2
・主な耐震改修工事の工法	3
・補助対象となる耐震改修（耐震改修工事事例集）	4
・耐震補強工事に関するよくある質問	13
・連絡先一覧	14

## ● 耐震診断から耐震改修までの流れ

### 1 耐震診断を申し込む。

県の支援制度により、自己負担額は2～6千円です。  
申込先は(一社)富山県建築士事務所協会(以下「協会」)(TEL076-444-1135)です。

### 2 耐震診断が実施される。

協会から派遣された建築士が、現地調査を行い、安全性を数値で評価します。  
現地調査は、非破壊(内外装を取り外さない)で行われます。

### 3 耐震診断の結果を踏まえて、耐震改修について検討するか決定する。

上部構造評点(次ページ参照)が1.0未満であった場合、倒壊の恐れがあります。  
改修費用等を知りたい場合は、次のステップに進みます。

### 4 補強計画の作成を依頼する。

補強計画では、改修の内容や、工事費の概算額が示されます。  
依頼先は、耐震診断を実施した建築士(建築設計事務所)等です。

### 5 補強計画を踏まえて、耐震改修を実施するか決定する。

耐震改修を実施すれば、大地震が発生しても、自分や家族の命を守ることができます。  
工事費に対する様々な支援(補助、融資、税制)があります。簡易改修や部分改修もあります。

### 6 見積(設計監理料及び工事費)を依頼する。

事業者にも現地をよく確認してもらい、リフォーム要望も伝えて、見積ってもらいましょう。  
依頼先は、富山県木造住宅耐震改修事業者リストから選ぶこともできます。

### 7 補助申請を行う。

設計費と工事費に対する補助を受けることができます。簡易改修や部分改修も対象です。  
申請先は各市町村の窓口です。

### 8 設計を依頼する。

工事の図面が作成され、必要な費用の計算が行われます。  
現地の状況や要望に合わせて、補強計画を修正します。

### 9 工事を依頼する。

工事監理者が図面どおりに工事が行われているか確認しながら、工事が進められます。  
工事中に分かったことにより、工事内容の変更が必要な場合があります。

### 10 完成

補助金に係る完了実績報告書を、各市町村の窓口へ提出します。  
**耐震改修で自分の命は自分で守る!**

## ● 耐震診断報告書の見方

耐震診断報告書のうち、住宅の耐震性能を示す「上部構造評点」の計算の仕組みや計算結果を中心に報告書の見方について解説します。

### 報告書P2上段記載例

上部構造評点 = 保有耐力 (Pd) / 必要耐力 (Qr)

階	方向	強さ P (kN)	配置 低減係数 E	劣化度 低減係数 D	保有耐力 Pd =P*E*D (kN)	必要耐力 Qr (kN)	評点 Pd/Qr	グラフ			判定
								0.7	1.0	1.5	
2	X	33.55	1.00	0.91	30.53	59.63	0.51	<div style="width: 51%;"></div>			× 倒壊する可能性が高い
	Y	32.33	0.50		14.71		0.24	<div style="width: 24%;"></div>			× 倒壊する可能性が高い
1	X	75.69	1.00		68.87	183.84	0.37	<div style="width: 37%;"></div>			× 倒壊する可能性が高い
	Y	91.98	1.00		83.70		0.45	<div style="width: 45%;"></div>			× 倒壊する可能性が高い

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

①	強さ P	あなたの住宅の階ごと、方向ごとの壁の強さ、柱と土台などの接合部、基礎の状態など自身に対する抵抗力を示す値です。【数字が大きいほど地震に強い】
②	壁の配置 E	あなたの住宅の階ごと、方向ごとに耐震壁(筋かい等がある壁)などのバランスを示す値です。【バランスがよい1.0 → バランス悪い0.3】
③	劣化度 D	あなたの住宅の劣化状態を表す値です。【良い1.0→悪い(劣化している)0.7】
④	保有する耐力 Pd	あなたの住宅の階ごと、方向ごとに①～③から算出した、地震に対する強さを示す数値です。【数字が大きいほど地震に強い】
⑤	必要耐力 Qr	あなたの住宅が地震で倒壊しないために、階ごと、方向ごとに必要な耐震性能を示す値です。
⑥	評点 Pd/Qr	階ごと、方向ごとの「必要耐力Qr」に対する「保有する耐力Pd」の割合です。あなたの住宅の耐震性能の評価です。

上部構造評点 = 保有耐力 (Pd) / 必要耐力 (Qr)

階	方向	保有耐力 Pd (kN)	必要耐力 Qr (kN)	評点 Pd/Qr	グラフ		
					0.7	1.0	1.5
2	X	30.53	59.63	0.51	<div style="width: 51%;"></div>		
	Y	14.71		0.24	<div style="width: 24%;"></div>		
1	X	68.87	183.84	0.37	<div style="width: 37%;"></div>		
	Y	83.70		0.45	<div style="width: 45%;"></div>		

### 報告書P1下段記載例

上記により算出された階ごと、方向 (X, Y) ごとの評点を示し、棒グラフ化したもの。

総合評価 (建築基準法の想定する大地震動での倒壊の可能性)

上部構造評点のうち最小の値	評点	判定
0.24	1.5以上	◎倒壊しない
	1.0以上～1.5未満	○一応倒壊しない
	0.7以上～1.0未満	△倒壊する可能性がある
	0.7未満	×倒壊する可能性が高い

階ごと、方向ごとの評点のうち最小の値を採用し、あなたの住宅の総合評価としたもの。  
1.0未満の場合には倒壊の可能性が  
あります

## ● 主な耐震改修工事の工法

耐震改修で用いられる主な工法は次のとおりです

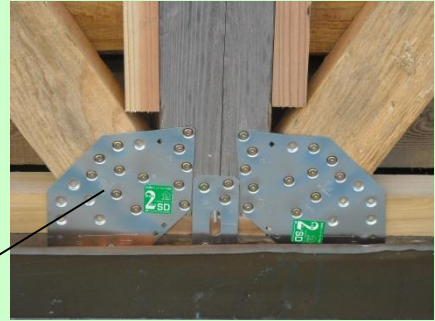
### 壁の補強



筋かい

筋かい（斜め材）、構造用合板、補強金物等を設置し、壁を補強します。

補強金物

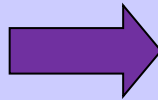


### 基礎の補強



鉄筋

鉄筋コンクリートの基礎を増し打ちして補強します。



増し打ち基礎



### 床や開口部などの補強



火打ち

垂直使用の火打ち材

開口部（窓）

火打ち（斜めに渡して補強する材）や構造用合板で床を補強します。

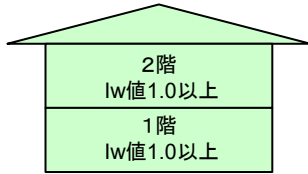


火打ち材を垂直に使用し、開口部を補強します。

## ● 補助対象となる耐震改修

全体改修：建物全体の評点（Iw値）を1.0以上に改修した事例

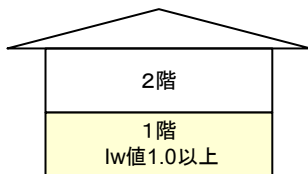
①建物全体（1階、2階）を  
Iw値1.0以上に改修



		(改修前)	→	(改修後)
事例1	評点	0.31		1.01 (339万円)
事例2	評点	0.26		1.00 (310万円)
事例3	評点	0.23		1.01 (415万円)

部分改修（1階改修）：1階の評点（Iw値）を1.0以上に改修した事例

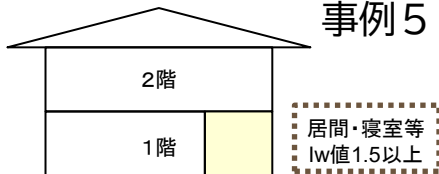
②1階全体だけを  
Iw値1.0以上に改修



事例2②（事例2との比較案）	評点	0.26	→	1.00 (247万円) (1階)
事例4	評点	0.23	→	1.02 (418万円) (1階)

部分改修（1室改修）：主要な居室の評点（Iw値）を1.5以上に改修した事例

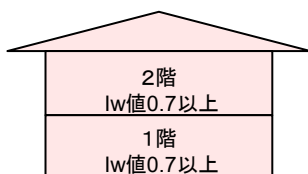
③1階の主要居室だけを  
Iw値1.5以上に改修



事例5	評点	0.46	→	1.55 (223万円) (建物全体) (1室)
-----	----	------	---	-----------------------------

簡易改修：建物全体の評点（Iw値）を0.7以上に改修した事例  
(耐震化に向けた第一段階の改修として)

④建物全体（1階、2階）を  
Iw値0.7以上に改修



事例1②（事例1との比較案）（低コスト工法）	評点	0.31	→	0.71 (258万円)
事例6（低コスト工法）	評点	0.19	→	0.72 (299万円)

※「評点（Iw値）」は、木造住宅の耐震指標であり、耐震性能を測るための指標の一つです。

Iw値が1.0以上であれば、耐震性が高いとされています。

※事例の工事費用には、耐震改修と関係がないリフォーム工事の費用は、含まれていません。

※記載金額は、令和6年度時点の工事金額を、物価上昇を考慮して1.1倍したものです。

※低コスト工法は、壁や天井を解体しない分コストを抑えられますが、1か所あたりの強度は低下します。

# 事例1



全体改修

評点

耐震補強前

耐震補強後

0.31 → 1.01

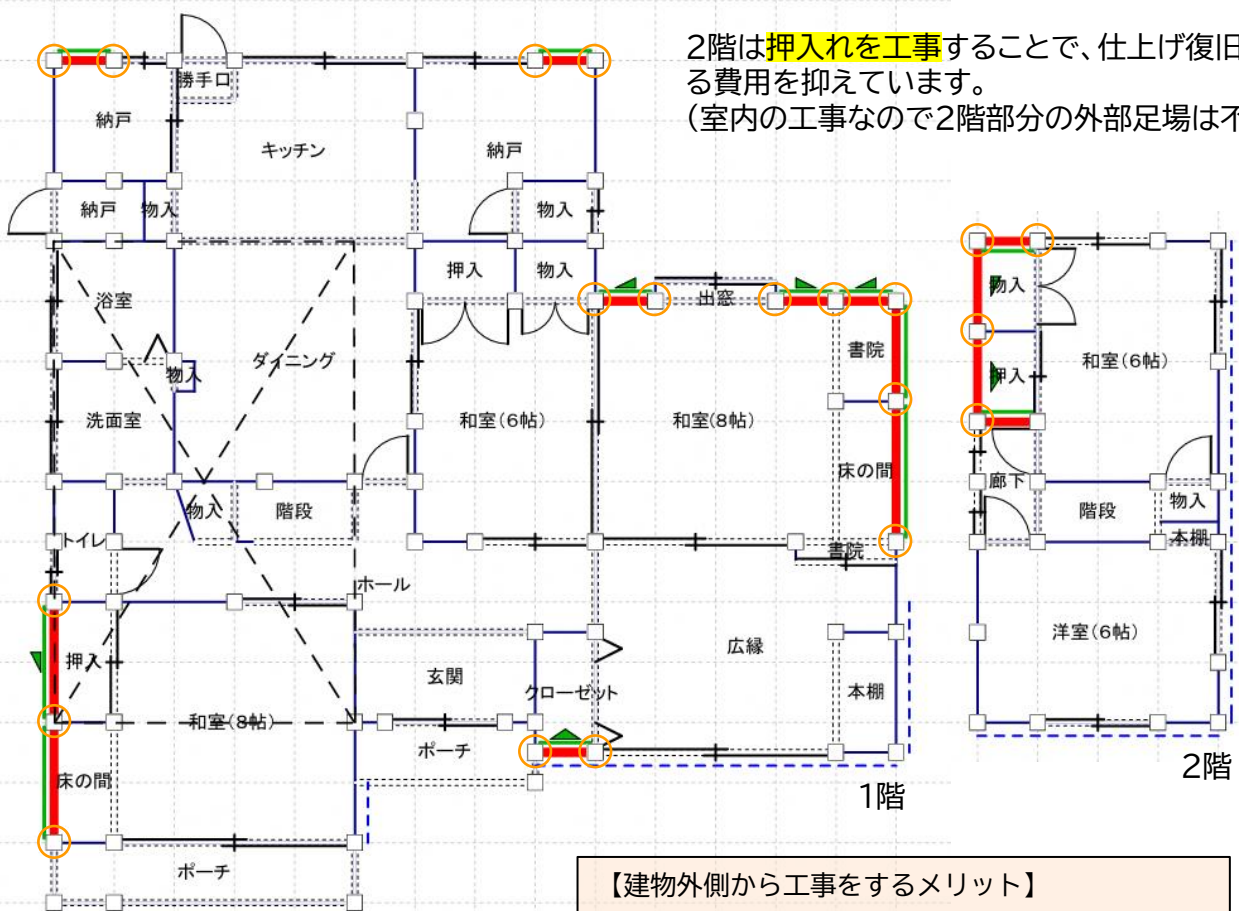
竣工年 昭和53年竣工  
階数 2階建て  
延べ床面積 約149㎡  
改修年度 令和6年度  
工事日数 35日

## ポイント

- ・建物外側から工事  
(屋外からのみ工事)
- ・住みながら工事
- ・改修箇所の見た目を変えない

日常生活に支障のないように、また基礎を作る費用がかからないようにするため、1階は全て**屋外側から工事**をしています。  
(建物周囲に約1mのスペースが必要)

2階は**押入れを工事**することで、仕上げ復旧にかかる費用を抑えています。  
(室内の工事なので2階部分の外部足場は不要)



設計費用 (単位: 万円)

補強計画	8
実施設計	18
工事監理	10
変更設計	13
計	49

工事費用

仮設	12
解体 (仕上げ)	60
耐震補強	94
復旧 (仕上げ)	95
附帯	29
計	290

合計	339
----	-----

### 【建物外側から工事をするメリット】

- ・外壁の直下には基礎があるため、基礎を新設する費用が不要となります。
- ・内部の工事に比べて、仕上げ材の解体・復旧が容易です。
- ・室内の家具の移動や清掃片付けが不要となります。

凡例

- 2階を示す
- 改修前の既存壁のうち、耐震要素とみられる壁
- 改修後(補強箇所)
- 筋交いシングル 筋交いダブル 面材耐力壁
- 柱金物取付

※上記は諸経費・税込みの費用です。

※上記金額には、耐震改修と関係のないリフォーム工事の費用は、含まれていません。

※記載金額は、令和6年度時点の工事金額を、物価上昇を考慮して、1.1倍したものです。

# 事例1 (パターン②) ポイント

- ・建物室内側から工事
- ・耐震性は事例1の7割にとどめる。
- ・低コスト工法を採用

0.7以上  
0.7以上  
簡易改修

評点  
耐震補強前 耐震補強後  
0.31 → 0.71

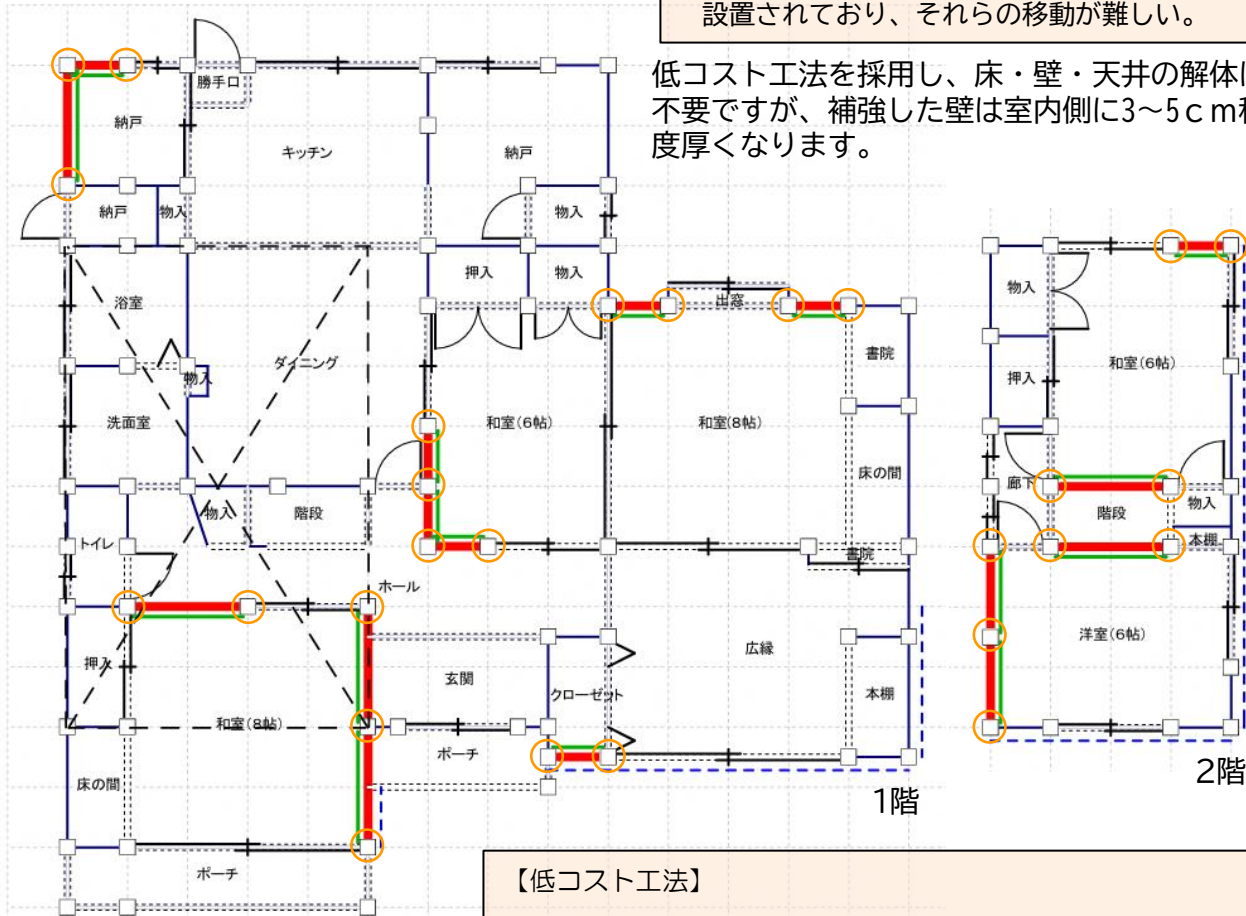
竣工年 昭和53年竣工  
階数 2階建て  
延べ床面積 約149㎡  
※事例1-1との比較

屋内だけで工事を行ったケースです。

### 【屋内だけで工事をせざるをえない場合】

- ・建物と敷地境界が近く作業ができない。
- ・建物周囲に物置や設備機器（給湯器など）が設置されており、それらの移動が難しい。

低コスト工法を採用し、床・壁・天井の解体は不要ですが、補強した壁は室内側に3~5cm程度厚くなります。



設計費用 (単位: 万円)

補強計画	8
実施設計	18
工事監理	10
変更設計	13
計	49

工事費用

仮設	12
解体 (仕上げ)	44
耐震補強	79
復旧 (仕上げ)	45
附帯	29
計	209

合計	258
----	-----

### 【低コスト工法】

- ・現在の床・天井を撤去せず、壁の上から耐力壁となる材料を設置するので、壁1か所ごとの解体や仕上げ復旧の費用が抑えられます。
- ・壁1か所あたりの強さは従来の補強壁より小さくなるので、補強箇所が増える場合があります。
- ・耐力壁となる材料を、クロス仕上げの壁等で隠す場合は、従来の工法と費用が同等になる場合があります。

凡例

- 2階を示す
- 改修前の既存壁のうち、耐震要素とみられる壁
- 改修後(補強箇所)
- 面材耐力壁
- 柱金物取付

※上記は諸経費・税込みの費用です。  
 ※上記金額には、耐震改修と関係のないリフォーム工事の費用は、含まれていません。  
 ※記載金額は、令和6年度時点の工事金額を、物価上昇を考慮して、1.1倍したものです。

# 事例2

ポイント ・ 建物の外側と  
 押入れ等だけの工事  
 ・ 住みながら工事

1.0以上  
 1.0以上  
 全体改修

評点  
 耐震補強前 耐震補強後  
**0.26 → 1.00**

竣工年 昭和28年竣工  
 階数 2階建て  
 延べ床面積 約190㎡  
 改修年度 令和6年度  
 工事日数 35日

日常生活に支障のないように  
 工事を行うため、居室を避けて工事  
 を行いました。



設計費用 (単位: 万円)

補強計画	10
実施設計	23
工事監理	10
変更設計	17
計	60

工事費用

仮設	24
解体 (仕上げ)	65
耐震補強	69
復旧 (仕上げ)	72
附帯	20
計	250

合計	310
----	-----

【住みながら工事ができる場合】

キッチン・リビング・浴室・トイレを避けて  
 工事ができる (日常生活に支障がない)

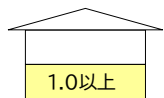
凡例

- 2階を示す
- 改修前の既存壁のうち、耐震要素とみられる壁
- 改修後(補強箇所)
- 筋交いシングル 筋交いダブル 面材耐力壁
- 柱金物取付

※上記は諸経費・税込みの費用です。  
 ※上記金額には、耐震改修と関係のないリフォーム工事の費用は、含まれていません。  
 ※記載金額は、令和6年度時点の工事金額を、物価上昇を考慮して、1.1倍したものです。

# 事例2 (パターン②) ポイント

- ・ 建物の外壁側と内部の押入れ等の工事
- ・ 住みながら工事



1階改修

評点

耐震補強前

0.26

→

耐震補強後

1.00

(1階)

竣工年 昭和28年竣工

階数 2階建て

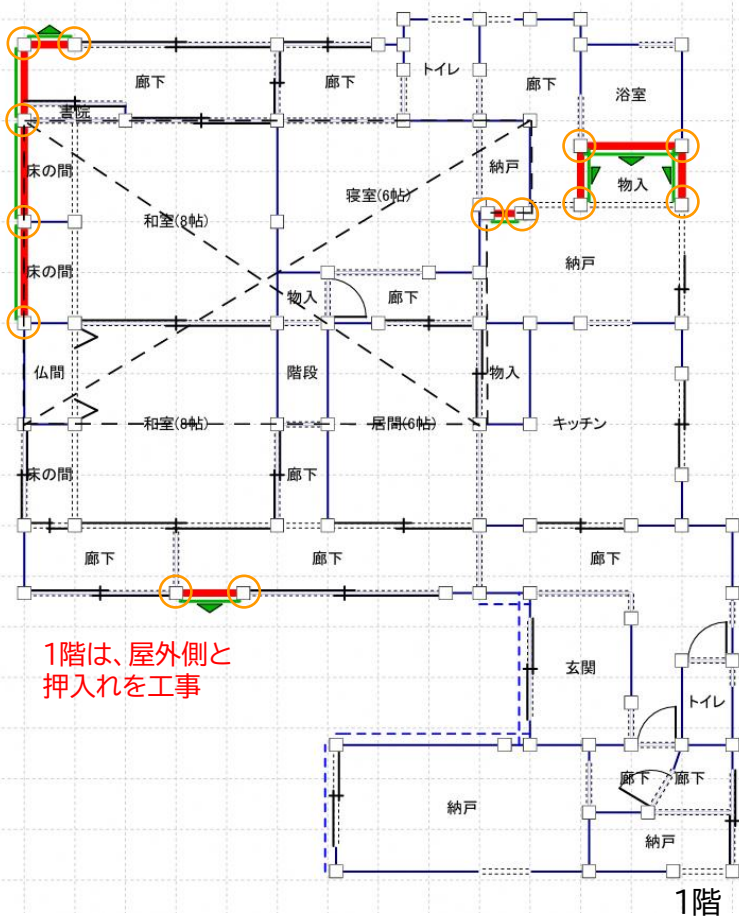
延べ床面積 約190㎡

日常生活に支障のないように

工事を行うため、居室を避けて工事を行いました。

### 【考え方】

工事費を抑えるため、2階の改修を行わず、生活の拠点である1階だけを改修する計画です。



1階は、屋外側と押入れを工事

設計費用 (単位: 万円)

補強計画	8
実施設計	18
工事監理	10
変更設計	13
計	49

工事費用

仮設	24
解体 (仕上げ)	48
耐震補強	51
復旧 (仕上げ)	60
附帯	15
計	198

合計	247
----	-----

### 【住みながら工事ができる場合】

キッチン・リビング・浴室・トイレを避けて工事ができる (日常生活に支障がない)

凡例

- 2階を示す
- 改修前の既存壁のうち、耐震要素とみられる壁
- 改修後(補強箇所)
- 筋交いシングル 筋交いダブル 面材耐力壁
- 柱金物取付

※上記は諸経費・税込みの費用です。

※上記金額には、耐震改修と関係がないリフォーム工事の費用は、含まれていません。

※記載金額は、令和6年度時点の工事金額を、物価上昇を考慮して、1.1倍したものです。

# 事例3



全体改修

評点

耐震補強前

耐震補強後

0.23 → 1.01

竣工年 明治43年竣工  
階数 2階建て  
延べ床面積 約257㎡  
改修年度 令和5年度  
工事日数 45日

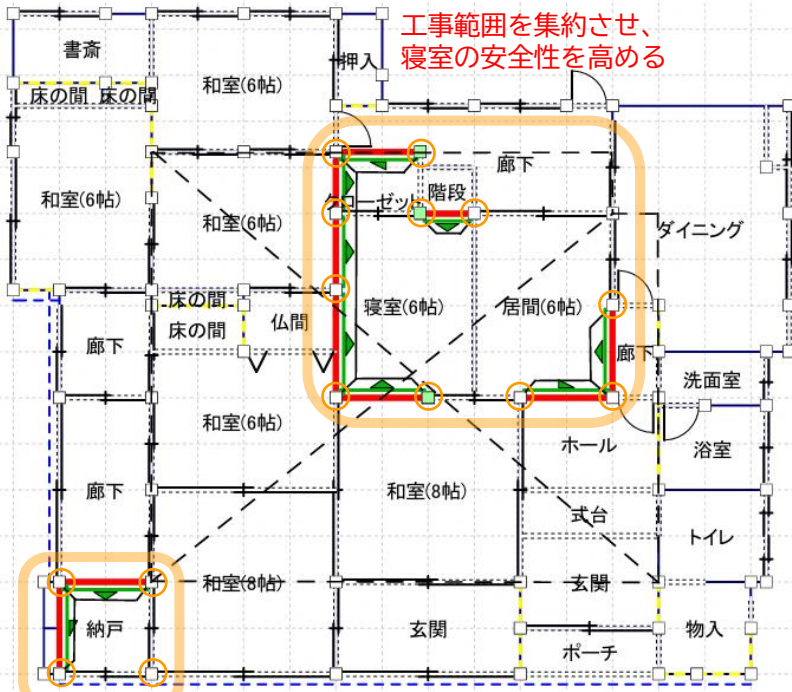
## ポイント

- ・ 建物内部の押入れ等の工事
- ・ 工事範囲を集約
- ・ 基礎を新設

明治43年に建てられた  
アズマダチの建物です。



アズマダチの外観イメージ  
「アズマダチ伝統館」  
出典:とнами散居村ミュージアムHP



1階は建物の中央部の生活の中心である寝室と居間周り、バランスを確保するための南東角の納戸の2か所に工事範囲を集約させています。

2階は外部足場を不要とするため、内側からの工事を行っています。

基礎は、礎石の上に柱が載っているだけの形式だったので、耐力壁の下にコンクリート基礎を新設しました。

設計費用 (単位:万円)

補強計画	9
実施設計	20
工事監理	10
変更設計	15
計	54

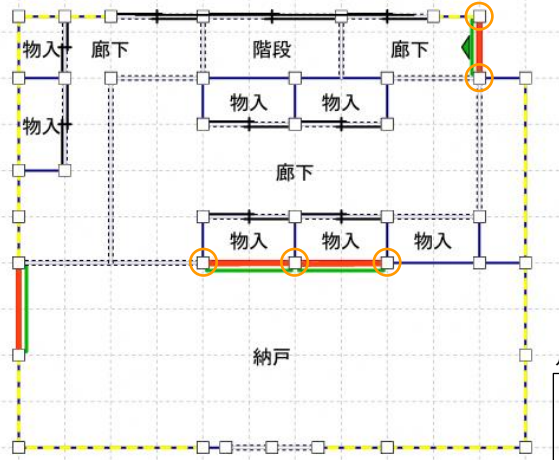
工事費用

仮設	12
解体 (仕上げ)	52
耐震補強	139
復旧 (仕上げ)	130
附帯	28
計	361

合計	415
----	-----

バランス確保

1階



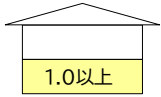
2階

凡例

- 土塗壁 (黄線) 2階を示す (点線)
- 改修前の既存壁のうち、耐震要素とみられる壁 (点線)
- 改修後(補強箇所) (赤線)
- 筋交いシングル (青三角) 筋交いダブル (緑三角) 面材耐力壁 (緑線)
- 柱金物取付 (赤丸) 基礎新設 (黒線)

※上記は諸経費・税込みの費用です。  
 ※上記金額には、耐震改修と関係のないリフォーム工事の費用は、含まれていません。  
 ※記載金額は、令和6年度時点の工事金額を、物価上昇を考慮して、1.1倍したものです。

# 事例4



1階改修

評点

耐震補強前

0.23

→

耐震補強後

1.02

(1階)

## ポイント

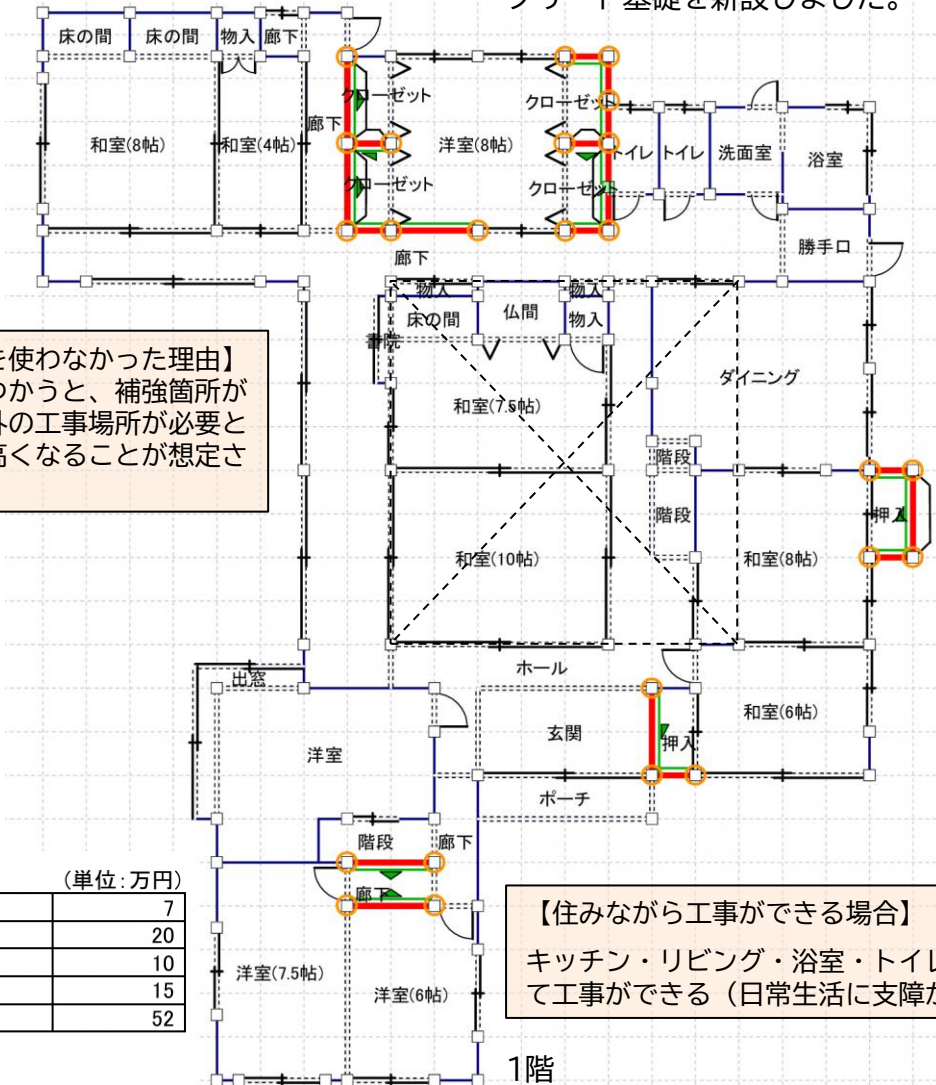
- ・ 押入れ等だけで工事
- ・ 住みながら工事
- ・ 基礎を新設

1階部分のみを改修した計画です。

竣工年 昭和46年竣工  
階数 2階建て  
延べ床面積 約325㎡  
改修年度 令和6年度  
工事日数 40日

解体と復旧を行うのは押入れ等だけにし、**寝室まわりに補強壁を集約して配置し**、全体のバランスをとるために、押入れ3か所にも補強壁を入れています。

耐震壁の下に基礎がない部分には、コンクリート基礎を新設しました。



【低コスト工法を使わなかった理由】  
低コスト工法をつかうと、補強箇所が増え、押入れ以外の工事場所が必要となり、工事費が高くなることが想定されたためです。

【住みながら工事ができる場合】  
キッチン・リビング・浴室・トイレを避けて工事ができる（日常生活に支障がない）

設計費用 (単位: 万円)

補強計画	7
実施設計	20
工事監理	10
変更設計	15
計	52

工事費用

仮設	12
解体 (仕上げ)	84
耐震補強	150
復旧 (仕上げ)	73
附帯	47
計	366

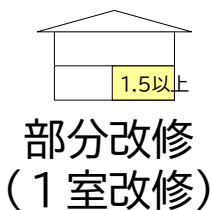
合計	418
----	-----

凡例

- 2階を示す
- 改修後(補強箇所)
- 筋交いシングル 筋交いダブル 面材耐力壁
- 柱金物取付 基礎新設

※上記は諸経費・税込みの費用です。  
※上記金額には、耐震改修と関係がないリフォーム工事の費用は、含まれていません。  
※記載金額は、令和6年度時点の工事金額を、物価上昇を考慮して、1.1倍したものです。

# 事例5



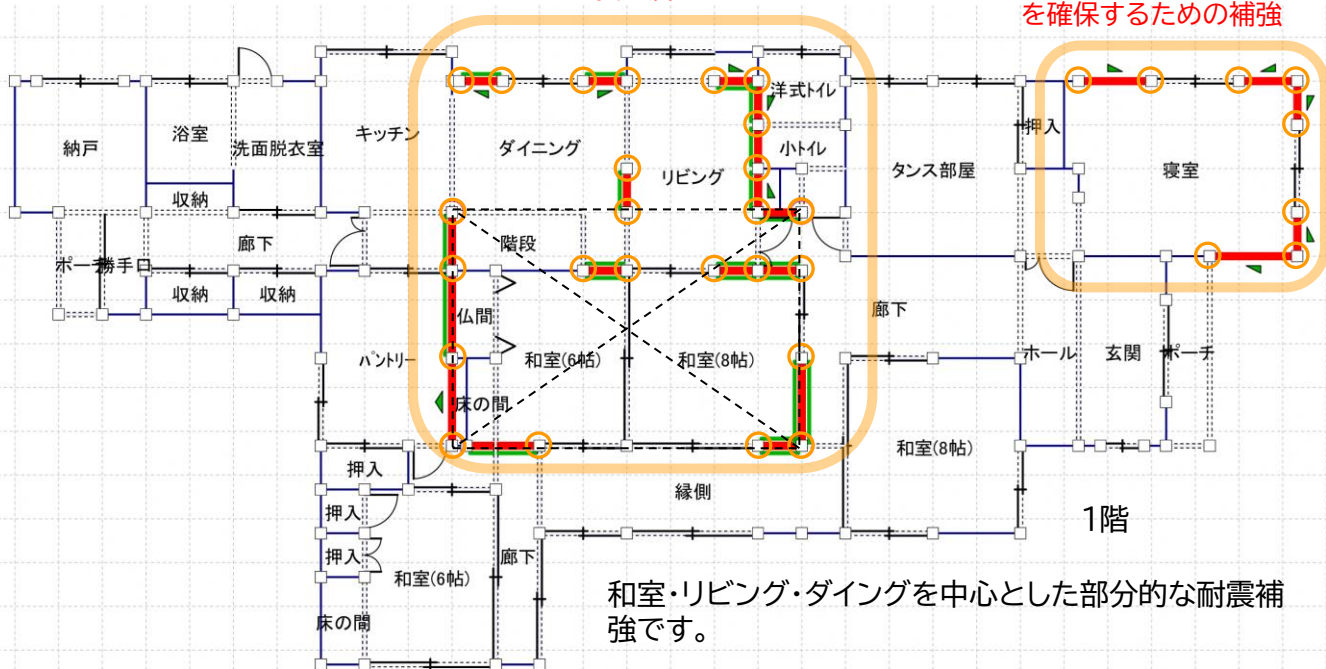
評点  
 耐震補強前 **0.46** → 耐震補強後 **1.55**  
 (建物全体) (主要な居室部分)

竣工年 昭和42年竣工  
 階数 2階建て (1階214㎡)  
 改修年度 令和6年度  
 工事日数 90日

- ポイント**
- ・ 工事費を抑えるため  
主要な居室だけを  
割り増し補強した事例
  - ・ **リフォームと耐震補強を  
同時に行い、費用を抑え  
快適性を向上**

耐震性能を確保する  
主要な居室

建物全体の耐力バランス  
を確保するための補強



和室・リビング・ダイニングを中心とした部分的な耐震補強です。

### 【快適性を向上する工事】

- ① キッチンの入れ替え
- ② 浴室をユニットバスにする
- ③ 和式のトイレを洋式にする
- ④ 畳をフローリングにする 等

これらの工事と耐震改修を同時に行うことで、仕上げ工事などの重複を防ぎ、**トータル**の費用を抑えることができます。

設計費用 (単位: 万円)

補強計画	5
実施設計	15
工事監理	10
変更設計	13
計	43

工事費用

仮設	15
解体 (仕上げ)	40
耐震補強	60
復旧 (仕上げ)	50
附帯	15
計	180

合計	223
----	-----

凡例

- 2階を示す
- 改修後(補強箇所)
- 筋交いシングル 筋交いダブル 面材耐力壁
- 柱金物取付

※上記は諸経費・税込みの費用です。  
 ※上記金額には、耐震改修と関係がないリフォーム工事の費用は、含まれていません。  
 ※記載金額は、令和6年度時点の工事金額を、物価上昇を考慮して、1.1倍したものです。

# 事例6

0.7以上  
0.7以上

簡易改修

評点  
耐震補強前 耐震補強後  
0.19 → 0.72

竣工年 昭和36年竣工  
階数 2階建て  
延べ床面積 約243㎡  
改修年度 令和6年度  
工事日数 60日

## ポイント

- ・ 建物内部の押入れ等の工事
- ・ **低コスト工法**を採用
- ・ **住みながら工事**
- ・ **基礎の新設補強あり**

低コスト工法は、壁1か所ごとの解体や仕上げの費用が抑えられる工法です。

一方で、壁1か所あたりの強さは、従来の筋交いや構造用合板で行う補強壁の耐力より小さくなる場合もあり、耐震補強壁工事の**箇所数が増える**傾向もあります。

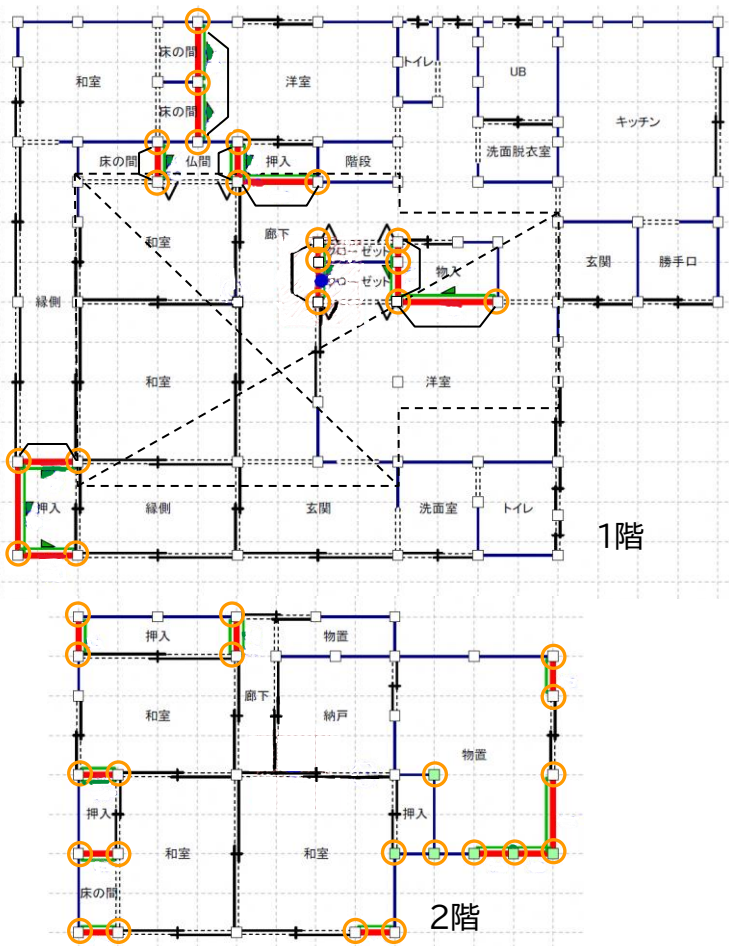
低コスト工法を使用しても、仕上げ復旧のやり方によっては従来の工法と費用が同等になる場合があります。

### 【低コスト工法の工事例】

和室の柱に**アルミアングル**を取り付けて（注1）、**構造用合板**を貼り、仕上げ復旧（クロス）を行います。

壁の厚さは**厚くなりますが、見た目はほぼ同じ**です。

**注1**  
柱と壁のチリ（厚みの差）が小さい場合は取り付けられないこともあります。



設計費用 (単位: 万円)

補強計画	4
実施設計	13
工事監理	10
変更設計	9
計	36

工事費用

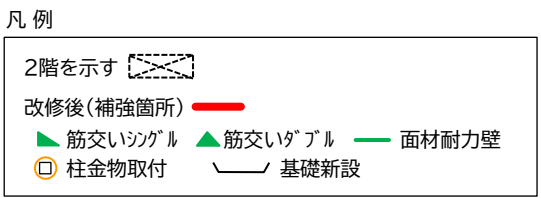
仮設	15
解体（仕上げ）	52
耐震補強	157
復旧（仕上げ）	35
附帯	4
計	263

合計	299
----	-----

建物1階、2階ともに、低コスト工法を用い、押入れ等に耐震壁を分散させて配置した計画です。

工事は全て建物の内部でおこないますが、順番に工事を行うことで住みながらの工事が可能となります。

基礎のない耐震壁の下に、コンクリート基礎を新設しました。



※上記は諸経費・税込みの費用です。  
 ※上記金額には、耐震改修と関係がないリフォーム工事の費用は、含まれていません。  
 ※記載金額は、令和6年度時点の工事金額を、物価上昇を考慮して、1.1倍したものです。

## ● 住宅の耐震補強工事に関するよくある質問

### Q1 耐震補強はどれくらいの期間がかかりますか？

A1 住宅の規模や補強工事の内容によって異なりますが、2～4週間程度です。居間・寝室等の部分的な耐震改修であれば1～2週間程度の場合もあります。

### Q2 耐震補強工事中に住宅に住むことはできますか？

A2 部分的な補強工事はもちろん、住宅全体の補強工事でも、荷物などをある程度片付けて工事が可能な空間を確保出来れば、部分的に少しずつ進めることにより、住まいながら工事を行うことは可能です。また、住宅の外部から行う補強方法等がであれば、住まいながら補強工事ができる場合もあります。

### Q3 耐震補強工事で注意することはありますか？

A3 複数の業者に見積をお願いして、費用を比較してみてください。（見積りに費用がかかるかどうかは依頼する時にあらかじめ確認してください。）  
また、複数の業者に依頼することで、よりよい補強方法の提案をもらえる可能性もあります。

### Q4 増改築やリフォームと同時に耐震改修を行うことで安くなりますか？

A4 住宅の増改築やリフォームと同時に耐震補強を行うと、それぞれ単独で行うより、安くなることがあります。  
壁や床の仕上材をはがす手間や元に戻す費用などを節約できれば、トータルの費用は安くなります。

### Q5 耐震改修工事を行いたいけどどこに相談すればいいかわかりません

A5 お知り合いの建築士事務所や工務店等、建築士の資格を持つ専門家にご相談ください。なお、お知り合いの方がいないなど不明な場合は、富山県木造住宅耐震改修事業者リストをご活用ください。

<https://www.pref.toyama.jp/1507/bousaianzen/bousai/iishin/ki00016850/ki00016850-003-01.html>

※リストへの掲載は事業者からの申請に基づく任意のものです。耐震改修の業務は本リスト掲載の事業者に限定されるものではありません。



## ● 連絡先一覧

### ◆ 木造住宅の耐震改修への支援

お申し込み及びお問い合わせは、お住まいの市町村担当窓口へお願いします。

市町村	電話番号	市町村	電話番号
富山市	076-443-2112	小矢部市	0766-53-5845
高岡市	0766-20-1429	南砺市	0763-23-2060
射水市	0766-51-6683	舟橋村	076-464-1121(内線52)
魚津市	0765-23-1031	上市町	076-472-2477
氷見市	0766-74-8079	立山町	076-462-9976
滑川市	076-475-1453	入善町	0765-72-3841
黒部市	0765-54-2647	朝日町	0765-83-1100(内線244)
砺波市	0763-33-1447		

### ◆ 木造住宅の耐震診断への支援

お申し込み及びお問い合わせ先

一般社団法人 富山県建築士事務所協会

電話：076-442-1135

富山県土木部建築住宅課

〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号 TEL:076-444-3356 FAX:076-444-4423